第 50 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミⅡ	チーム名	青椒肉絲
タイトル	テレワーク with コロナ		
テーマ群	e)産業・企業		
メンバー	[illegible]		
研究計画内容	2020 年 1 月を境として、中国の武漢市から世界中に新型コロナウイルスが拡大した。世界の新型コロナウイルスの感染者数は、10 月現在すでに 4300 万人を突破し、今後も増加傾向の見通しである。日本でも 5 月に全都道府県で緊急事態宣言が解除されたものの、「ウィズコロナ」の時代に向けて、企業がいかに感染拡大を防止しながら事業活動を営むかが課題となる。 そこで新しい働き方として注目を集めているのが、「テレワーク」である。総務省「令和元年通信利用動向調査」によると、企業において「テレワークを導入している又は導入予定がある」と答えた割合は 29.6%であり、年々増加傾向にある。また、テレワークの導入目的は「業務の効率性の向上」と答えた割合が最も多く、次いで「勤務者のワークライフバランスの向上」「勤務者の移動時間の短縮・混雑回避」などが挙げられ、テレワークの導入に対して約 9 割の人が「非常に効果があった又はある程度効果があった」と回答した。 このように、テレワークが新しい働き方として定着してきているように感じる一方で、仕事の生産性をめぐる評価や人事評価・労務管理等の課題が多く残る。日本経済新聞社が 9 月に行った「テレワークの生産性におけるアンケート調査」によると、「上がった」と回答した割合が 31.2%である一方で「下がった」と回答した割合が 26.7%と評価が二極化している。また、「部下をどう評価、管理するべきかわからない」という意見も存在する。 私たちは、テレワークのメリット・デメリットを考慮したうえで、テレワークの普及が進んでいる企業に対して、具体的にどのような働き方を実践していて、人事評価や労務管理はどのように行っているのか、を調査する。また、テレワークの普及が遅れている企業に対しても調査を行い、問題点を浮き彫りにする。そして、実地調査を基に「ウィズコロナ時代における理想の働き方」を提唱する。		